

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-17	中学校	社会	社会 (公民的分野)	第3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	公民 046-92	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して		

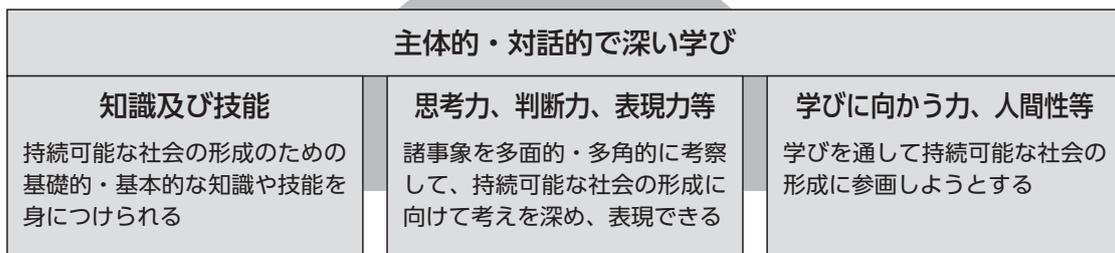
1. 編修の基本方針

教育基本法第2条に関する総合的な基本方針

本教科書は、教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するために、以下の考え方で編修にあたりました。

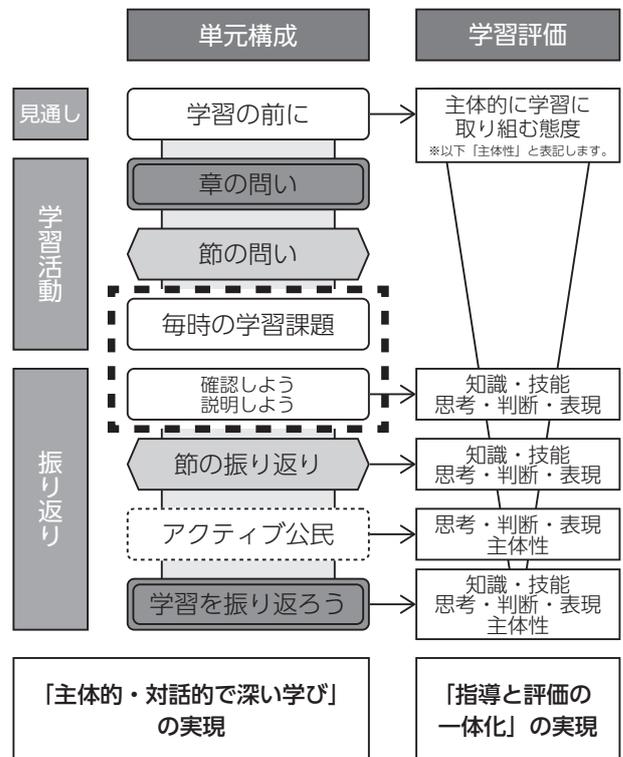
編修の基本理念

持続可能な社会の形成に参画する主権者となり、予測困難な時代を生き抜く力を育む



問いを軸にした単元構成の構造化によって、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現

- ・章・節・各本文ページそれぞれの冒頭では、学習する内容を問い（「章の問い」「節の問い」「毎時の学習課題」）で示し、生徒みずからが学習の見通しをもてるようにしています。また、それらの問いの対となるように、章・節・各本文ページの末尾に課題（「学習を振り返ろう」「節の振り返り」「確認しよう」「説明しよう」）を設けています。
- ・そして、それぞれの問いと課題では、協働的に学習する場面を設定しています。これらの構造化された単元構成と学習方法の工夫によって、「主体的・対話的で深い学び」が実現できます。
- ・それぞれの学習活動では、3つの資質・能力を特に育成する場面を設けることで、学習を見取ることができ、3つの観点に基づいた「指導と評価の一体化」が実現できます。



▲見通しと振り返りを軸とした本書の単元構成と学習評価との対応

教育基本法第2条第1号に関する基本方針

理解しやすい本文と豊富な具体事例とビジュアル資料、大判イラストにより、意欲的に学びに向かう態度を育成

- ・章の冒頭に、大きなイラストから単元の学習の全体像を概観する特設「学習の前に」を設けています（全5か所）。イラストを読み解く活動を通じて、単元の学習内容と生活経験・既習事項を結びつけることで、学びに向かう意欲を

喚起します。

- 各本文ページの導入資料（紙面の左上側）においても、同様の趣旨で、学習と直結する実社会の事象を、躍動感ある写真・図版とともに取り上げています。

教育基本法第2条第2号に関する基本方針

「現代社会の見方・考え方」を働かせて思考力・判断力を養う活動を通じて、自主・自律の精神をもって創造に取り組む資質を育成

- 「**技能をみがく**」コーナーを、6か所設けています。ロールプレイングやディベート、ディスカッションなどのスキルを扱い、主体的な取り組みを促すことによって自主・自律の精神を養います。
- 本文ページ中の各種写真・統計類において「**資料活用**」の問いを設けており、習得した技能を、生徒自身が日頃からみがいていけるようにしています。
- 18歳までに習得したい実践的な知識を学ぶ、「**18歳への準備**」コーナーを3か所設け、知識・技能を実社会に即した形で身につけ、未来に活かせるようにしています。
- 第2部第1章では、「**学習の前に**」から「**学習を振り返ろう**」までの一連の学習の流れを通じて、「現代社会の見方・考え方」の一つである「法の支配」に、無理なく着目することができるように配列を工夫しています。

教育基本法第2条第3号に関する基本方針

合意形成に向けた議論を行う活動の充実により、社会参画に向けた態度と資質を育成

- パフォーマンス課題を設定した**アクティブ・ラーニング型**の授業を行える「**アクティブ公民**」を、特設ページとして10か所、コラムとして31か所設けています。さまざまな立場を踏まえて議論を進めることにより、合意形成を促します。実社会に見られる課題の解決に向けた選択・判断に取り組む活動も行えます。
- 各章の末尾の「**学習を振り返ろう**」の「**探究学習への準備**」ページでは、他の生徒が提示した視点を取り入れて、自分自身の思考を多角化するプロセスに重点を置いており、協働の意義を実感できます。

教育基本法第2条第4号に関する基本方針

人権や環境・エネルギー、防災といった現代社会の課題を豊富に掲載し、持続可能な開発目標（SDGs）の意義への理解を育成

- 「**未来に向けて**」コーナーでは、人権の尊重や環境保全、防災といった現代社会の課題を積極的に取り上げています。
- 第4部第1章第2節は、**SDGsの17の目標を意識した配列構成**にすることで、SDGsの視点を無理なく学習に結びつけることができます。また、「**アクティブ公民**」では、将来の日本の電源構成案を考える活動を通して、持続可能な社会の形成に向けて、具体的に考えを深めることができます。
- 第5部第1章は、**持続可能な社会の形成**に向けて解決すべき課題を探究することによって、中学校3年間の社会科の総まとめができるようになっていきます。

教育基本法第2条第5号に関する基本方針

紛争と平和構築の内容の充実により、国際社会の平和と発展に寄与する理解を促進

- 第4部第1章第1節の本文では、**国旗・国歌や領土**についての解説を重点的に行っています。領土については、国際法に則った日本政府の立場や解決に向けた取り組みを、丁寧に説明しています。
- 第4部第1章第2節の本文では、ロシアによるウクライナ侵攻をいち早く反映し、紛争の背景と**平和構築**への課題について丁寧に説明しています。また、国際社会の平和の実現に向けた日本の貢献も紹介しています。
- 第1部第1章第2節の本文では、琉球文化やアイヌ文化といった多様な文化にもふれながら、**日本の伝統文化**とその継承についての解説を丁寧にしています。

2. 対照表

教育基本法第2条の各号に定められた教育の目標を実現するために、教科書全体を通して次の配慮をしています。

本書の構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
公民的分野の学習の全体像	公民的分野全体の学習目標に照らした日々の学習の位置づけを、生徒自身が見通しをもちやすいように構成することを通じて、主体的な学びを促進し、幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1・2号)	巻頭7
第1部 現代社会 第1章 現代社会と私たち 第1節 現代社会の特色	人工知能の発展がもたらす影響を、防災での活用などのさまざまな面から取り上げることを通じて、現代社会の特色について、幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号)	6~7
第2節 私たちの生活と文化	北海道から沖縄まで、多様な日本の文化を取り上げることを通じて、我が国や郷土に対する誇りと愛情、伝統文化の継承者としての自覚を養えるようにしました。(第5号)	14~15
第3節 現代社会をとらえる枠組み	防災備蓄倉庫の新設やマンションの騒音問題などの例を通じて、対立からよりよい合意に至るために効率や公正の見方・考え方を踏まえる必要があることを、実感とともに理解を深められるようにすることで、「きまりの意義」などに関する幅広い知識と教養を身につけ、公共の精神を養えるようにしました。(第3号)	16~23
第2部 政治 第1章 日本国憲法と私たち 第1節 民主主義と日本国憲法	民主主義についての解説や、多数決について考える活動を通じて、民主主義の意義と課題を実感とともに理解を深められるようにすることで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第2・3号)	32~35
第2節 基本的人権の尊重	人権に関する中学生の作文や、差別をなくすさまざまな取り組みの事例を通じて、「個人の尊重」の重要性を共感とともに理解できるようにすることで、個人の価値を尊重しつつ、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。(第1・2号)	52~53
第3節 法の支配を支えるしくみ	権力分立や憲法保障を日本国憲法との関わりの中で捉えることを通じて、「法の支配」や立憲主義の重要性を理解できるようにすることで、個人の価値を尊重しつつ、主権者として主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第2・3号)	66~69
第2章 政治と私たち 第1節 民主政治と私たち	新聞やソーシャルメディアなどのさまざまな媒体の特性への理解を通じて、信頼できる情報は何かを冷静に判断する力(メディアリテラシー)を習得できるようにすることで、幅広い知識と教養を身につけ、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第2号)	78~79 84~85
第2節 国の政治のしくみ	国政の現状や国会議員の役割を具体的に理解できるようにすることで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第3号)	86~87
第3節 地方自治と私たち	少子高齢化に伴って若者の政治参加がますます求められる現状についての解説を通じて、主権者として主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第2・3号)	106~107
第3部 経済 第1章 経済活動と私たち 第1節 経済のしくみと消費	無人島を例にした活動を通じて、経済活動における分業と交換の重要性を実感とともに理解を深められるようにすることで、幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号)	120~121
	一人暮らしにかかるお金や契約について考える活動を通じて、限られたお金や時間における最適な選択のあり方について実感とともに理解を深められるようにすることで、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第1・2号)	130~131
第2節 企業と生産	起業を疑似体験する活動を通じて、起業にあたってつぎつぎと起こる問題に対して自分なりに意思決定をすることで、起業の重要性や働くことの意義を理解し、勤労を重んずる態度を養えるようにしました。(第2号)	132~145

第3節 市場経済と金融のしくみ	買い物の際の選択やデジタル通貨の流通などを取り上げ、市場や金融のしくみについて実感とともに理解を深められるようにすることで、幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号)	146~155
第4節 財政と私たち	これからの日本の財政のあり方に対する「自助」「共助」「公助」の位置づけや、受益と負担のバランスについての解説を通じて、納税者として主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第2・3号)	162~165
第5節 日本経済の課題とこれから	情報通信技術 (ICT) の発展や少子高齢化といった日本経済の現状と今後の課題についての解説などを通じて、幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号)	172~173
第4部 国際 第1章 国際社会と私たち 第1節 国際社会のしくみ	国旗や国歌を相互に尊重することが現代世界の重要な儀礼であることの解説を通じて、我が国のみならず諸外国の国旗及び国歌を尊重する態度を養えるようにしました。(第5号)	184~185
	北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることや、それらの平和的な解決の重要性への理解を通じて、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第5号)	186~187
第2節 地球的課題とその解決	SDGs の意義や、達成に向けた取り組みの現状についての解説を通じて、持続可能な社会の重要性を理解し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)	190~209
	脱炭素社会への取り組みの事例を通じて、国際協調の重要性を理解し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)	196~201
	日本の外交方針や、政府開発援助 (ODA)、自衛隊の活動に関する解説などを通じて、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第4・5号)	206~207
第5部 課題探究学習 第1章 課題探究と私たち	課題探究学習としての「発展途上国への教育普及」のレポート作成例を通じて、持続可能な社会の形成の視点から解決すべき問題を考察、構想し、レポートとして論述する手順を主体的に身につけられるようにしました。(第2・3号)	216~223
防災・減災を通じた社会参画	兵庫県神戸市での防災・減災を通じた社会参画の事例によって、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第3・4号)	巻末2~3
学びを深める工夫	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	学習内容に応じた主題とパフォーマンス課題を設定した、「アクティブ公民」を設けています。話し合いなどのさまざまな対話的な活動を通じて、課題に粘り強く向き合い、さまざまな立場を踏まえて、合意形成を目指す態度を身につけることができます。(第1・3号)	22~23 など 特設全10テーマ コラム全31テーマ
	持続可能な社会の形成の事例を、「未来に向けて」で取り上げています。「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6テーマを地理・歴史・公民の3分野で扱い、SDGsの達成に向けて主体的に取り組む態度を身につけることができます。(第3・4・5号)	巻末1~2 など 特設全13テーマ コラム全13テーマ
	学習に必要な技能を習得する「技能をみがく」を設けています。主体的に探究学習に取り組む自主・自律の精神を身につけるとともに、学習の基礎的スキルを習得することができます。(第2号)	23 など 全6テーマ
	実社会の動きや新しい事例を紹介する「公民プラス」を設け、生徒の興味をかき立てるとともに、単元の理解を深めます。(第1号)	97 など 全18テーマ
	周囲との対話を促す「対話アイコン」を設けています。話し合い活動を通じて、自身の考えをより深めるとともに、他者の意見を尊重する態度を身につけることができます。(第1・3号)	全体

	社会的な見方・考え方を働かせる視点を示す「 見方・考え方アイコン 」を設け、課題解決に必要な思考力を深めることができます。(第1号)	144ほか 随所
	「 資料活用アイコン 」を設け、統計や写真から情報を読み取る力を、日々の学習で身につけることができます。(第2号)	34ほか 随所
	地図帳の活用を促す「 地図帳活用アイコン 」を設けています。地理的事象と関連させた、深い学びを得ることができます。(第1号)	203ほか 随所
	学習に有用な 思考ツール を巻頭9で丁寧に紹介し、話し合い活動の場面でも積極的に使用しています。思考ツールを効果的に用いて、課題解決に取り組む力を身につけることができます。(第2号)	巻頭9、5ほか 随所
	単元の学習の全体像が概観できる大判のイラストで構成する「 学習の前に 」を設けています。社会のしくみや制度と現実の生活とを結びつけることで、学びを追求する意欲を喚起します。(第1号)	2~3ほか 全5テーマ
	「 18歳への準備 」を設け、18歳までに習得したい知識・技能を実社会に即した形で身につけ、未来に活かせるようにしています。(第2号)	84~85ほか 全3テーマ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. すべての生徒が使いやすいユニバーサルデザインに基づいた編修

- ・特別支援教育の専門家からの助言をもとに、図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、**インクルーシブ教育**へ配慮した編修を行っています。
- ・文字は、読みやすい**ユニバーサルデザインフォント**を採用しています。また、重要語句を示すゴシック体の太さやルビの見やすさにも工夫を凝らしました。
- ・配色は、色覚特性に配慮した**識別しやすい色づかい**となるように工夫しています。また、図版に模様や線、記号などを使用することによって、**色以外からも情報を読み取れる**ようにしています。
- ・学習者用デジタル教科書を発行し、ふりがなや音読、色の反転などの機能を付加します。

2. 生徒の個別最適な学びを支援する QR コンテンツ

- ・学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するコンテンツを多数掲載し、**個別最適な学び**を支援します。
- ・教科書の学習内容とリンクした「学習の前に」「学習を振り返ろう」「アクティブ公民」「パン屋さんをつくろう」のリンク集、ワークシート、アプリケーションなどで、**学習内容の定着**を支援します。
- ・「用語解説」「統計資料」「図解アニメーション」「巻末法令集」のほか、「NHK for School」や「リンク集」など、生徒が**みずから学習内容を深める**際の足がかりとなるコンテンツを用意しています。
- ・そのほか「他分野教科書リンク」「教科書を活用した学び方」「思考ツール・白地図」を掲載しています。

3. 指導しやすさ・学びやすさ向上のための取り組み

- ・小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・地理・歴史・他教科の関連」や「小・地・歴の関連アイコン」を示し、既習事項を踏まえて、物事を**多面的・多角的に捉える**足がかりを設けました。また、分野間・教科間での**カリキュラムマネジメント**を実施する指標となるようにしています。
- ・**1見開き1時間**での授業を原則とし、適切な分量で学習計画を立てやすくしています。「学習を振り返ろう」も含めて、総授業時数を90時間（標準時間100時間）としています。
- ・生徒の**発達段階**に応じてそれぞれ難易度設定をしておき、学びを深められるようにしています。
- ・男女のイラストで役割を限定しないなど、**ジェンダーの固定観念をもたない**ように配慮しました。

4. 使いやすく、環境に配慮した印刷・製本の工夫

- ・紙は軽くて丈夫で、写真や図版が鮮明にうつるものを使用しています。
- ・再生紙を用いた紙と国産米の米ぬかからつくられるインクを使用し、環境への配慮をしています。
- ・堅牢な造本方式を採用し、使用期間中壊れることがないようにしています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-17	中学校	社会	社会 (公民的分野)	第3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	公民 046-92	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

これからの予測困難な時代に対応し、持続可能な社会の形成に参画する力を育むために、この教科書では、特に以下の点に意を用いて編修しています。

特色1 「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現する工夫

1. 「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現する単元と問いの構成

①学習の見通しと振り返りに最適な単元構成

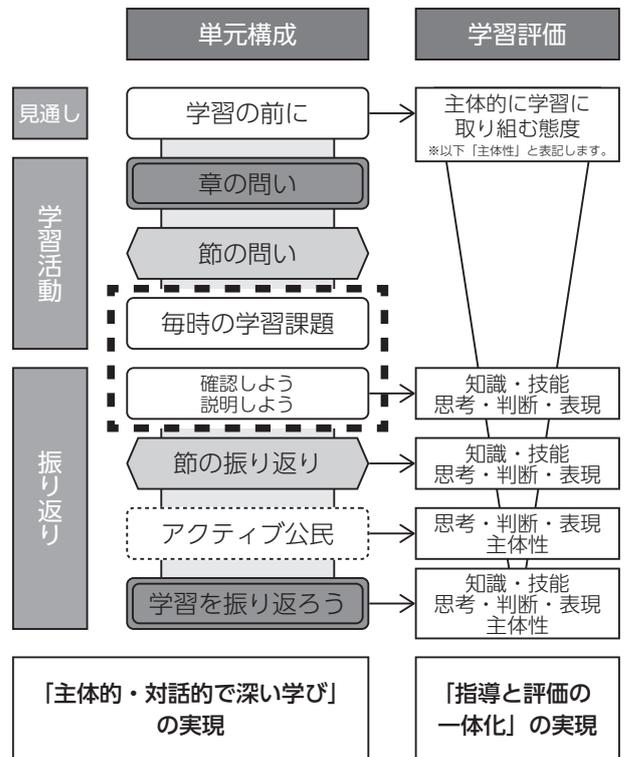
・章を基本単元とし、学習の見通しと振り返りがしやすい単元の構成にしています。学習の見通しと振り返りを通して、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現できます。

学習の見通し 単元のはじめに設定した「学習の前に」では、イラストを読み解く学習活動を通して単元の学びを見通します。単元の学習に対する興味・関心を高め、学習の見通しを立てることができます。

学習の振り返り 単元のまとめとして設定した「学習を振り返ろう」では、思考ツールや「対話的な学び」を通して、節の問いや章の問いに取り組み、単元の学習を振り返ります。

「主体的・対話的で深い学び」の実現 「学習の前に」を活用し、学習の見通しを立てて学びを進めていくことで、「主体的な学び」を実現できます。また、「学習を振り返ろう」を活用し、思考ツールや話し合い活動を通して「対話的な学び」や「深い学び」を実現できます。

「指導と評価の一体化」の実現 「学習の前に」や「学習を振り返ろう」を活用して節の問いや章の問いに取り組むことで、習得した「知識・技能」やそれを活用した「思考・判断・表現」を評価できます。また、単元を通した見通しと振り返りによって、みずからの学びを調整し、粘り強く取り組む「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができます。



▲見通しと振り返りを軸とした本書の単元構成と学習評価との対応



▲学習の前に (p.30-31)



▲学習を振り返ろう (p.70-72)

① 図で知識を整理する

●憲法と国家・国民の関係 (p.33)
図のA~Eに入る語句を選ぶ。(国民、憲法、国家権力、国家)

●基本的人権の構成 (p.45)
図のA~Gに入る語句を選ぶ。(社会権、平等権、個人の尊厳、自由権、参政権など)

▼ 学習を振り返ろう (p.70-71)

自分だけでなく、みんなにとって暮らしやすいまちになっているか考えとよそぞろだ。

いろんな場面があるけど、今までの学習とどのように関係しているのかな。

2 節の振り返りや①を参考にして、章の問いの答えをまとめよう。

1章の問い
民主的な社会をつくるために、私たちはどのように憲法をとらえ、考えていくべきなのだろうか。

ステップ1
私は、憲法とは (A) であると考えます。

ステップ2
民主的な社会をつくるために、私たちは (B) していくべきである。

ステップ1
(1) 下線部(A)を考えよう。
① 見方・考え方
個人の尊重と法の支配は、憲法とどのように関わっているだろうか。

ステップ2
(1) 下線部(B)について、クラゲチャートを用いてアイデアを出そう。その際、p.43 TRY2も参考にしてみよう。

民主的な社会をつくるために

② 図で問いを考える

理由① 歴史上、人々の支配で多くの人が苦しんだ。

理由② 主権 民主社会では、法に基づく政治が大切である。

理由③ 主権 日本国憲法では、基本的人権が保障されている。

理由④ 個人の人権の尊重が大切である。

理由⑤ 主権 民主社会では、法に基づく政治が大切である。

理由⑥ 憲法で学習した時代では、どのような政治が行われていたかな。

理由⑦ p.30~31の学習のイラストで学習した考え方を活用してみよう。

(1) p.30~31 TRY2を振り返り、改めてイラストから困っている人や課題がある場面を探して、その具体的な内容を表にまとめてみよう。

(2) イラストから権利が保障されている人や場面を探して、その具体的な内容を表にまとめてみよう。

(3) 章の学習を踏まえて、(1)、(2)で見つけた内容が関係する日本国憲法の条数を表にまとめてみよう。

(4) ③の表(3)で作成した表を周りの人と持ち寄り、意見交換をしよう。

図って課題を
例C1

権利が保たれている人
例E1

▲ 図を用いた節の問いのまとめ (p.70) ▲ 「学習の前に」の振り返り (p.71) ▲ 思考ツールを用いた章の問いのまとめ (p.71)

② 深い学びと学習評価を実現する構造化された問い

・各單元には、單元を貫く問い「章の問い」、小単元の問い「節の問い」、毎時の問い「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」を設定しています。役割と関連を明確にしているので、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力」を着実に習得・育成でき、それぞれの観点別評価を適切に行うことができます。

問いの種類	観点別評価への対応			
	知	思・判・表	主	
章の問い	○	◎	◎	1章の問い 民主的な社会をつくるために、私たちはどのように憲法をとらえ、考えていくべきなのだろうか。
節の問い	○	◎	○	1節の問い 民主社会では、なぜ法に基づく政治が大切なのだろうか。 p.32~43
学習課題	◎	○		2節の問い 日本国憲法では、なぜ基本的人権が保障されているのだろうか。 p.44~65
確認しよう	◎			3節の問い 日本国憲法では、なぜ国の統治について規定しているのだろうか。 p.66~69
説明しよう	◎	◎		▲ 章の問いと節の問い (p.70) 立憲主義とはどのようなしくみで、それを実現していくためにはどのような取り組みが必要なのだろうか。 ▲ 学習課題、確認しよう、説明しよう (p.32-33)

▲ 問いの種類と観点別評価

2. 「主体的・対話的で深い学び」を具現化し活動型の学習を促す「アクティブ公民」

・特設ページと本文ページのコラムに設定している「アクティブ公民」では、具体的なテーマを設定した活動型の学習を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現できます。

活動を促すさまざまなパフォーマンス課題 裁判員として判決を出す、住民としてまちの予算案を考え提案する、市長として赤字バス路線の存続を考える、将来の日本の電源構成案を提案するなどのパフォーマンス課題を設定しています。ペーパーテストでは測れない「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに最適です。

対話を中心とした活動型学習 ロールプレイングやディスカッション、意見交換や発表などの対話型の学習活動を数多く設定しています。対話を通した「深い学び」が実現できます。

見方・考え方の活用 タイトル脇にはページ全体で働かせる「見方・考え方」を明示しています。また、「見方・考え方」を働かせる問いを、学習場面に併せて設定しています。

見方・考え方
効率と公正の見方・考え方を働かせて考えてみよう。

▼ 赤字バス路線に税金を使うべきか？ (p.166-167)

ページ	アクティブ公民 (特設ページ)
p.22-23	マンションの騒音問題を解決しよう
p.42-43	民主主義のあり方を考えよう
p.64-65	青果店の立ちのきについて考えよう
p.98-99	裁判員として裁判の判決を考えよう
p.108-109	自分のまちの課題を解決する予算案を提案しよう
p.120-121	もしも無人島に漂着したら？
p.130-131	一人暮らしにはお金がいくらかかる？
p.144-145	パン屋さんを起業してみよう
p.166-167	赤字バス路線に税金を使うべきか？
p.208-209	2040年の日本の電源構成案を提案しよう

アクティブ公民 A 赤字バス路線に税金を使うべきか？

6 ディスカッションをやってみよう

1 赤字バス路線の禁止計画を確認しよう

2 赤字バス路線をめぐる住民の主張を整理しよう

3 対立から合意に向けた解決策を提案しよう

TRY1

166

特色2 社会への興味・関心を広げて、学習内容の理解につなげる工夫

1. 単元の学びの興味・関心を高める大判イラスト「学習の前に」

イラストから探す・読み解く学習活動 (TRY) を通して、単元の学習内容と生活経験・既習事項を結びつけることで、興味・関心を高めることができます。また、章の問いを参考に、自分で単元を貫く問いを設定できます。

単元	学習の前に
1部1章	45年前と今の社会を比べてみよう
2部1章	暮らしのなかから憲法との関わりを探してみよう
2部2章	みんなが暮らしやすい社会をつくろう
3部1章	暮らしのなかから経済を探してみよう
4部1章	地球的課題を探してみよう

▼「学習の前に」(p.30-31)



2. 毎時の授業の知識を定着させる本文ページ

本文ページは、見開き1授業時数とし、73時数分を設定しています。年間の授業時数の中で無理なく学習を進めることができます。また、構造化された紙面構成によって、学習内容への理解を深め、知識を着実に定着できます。

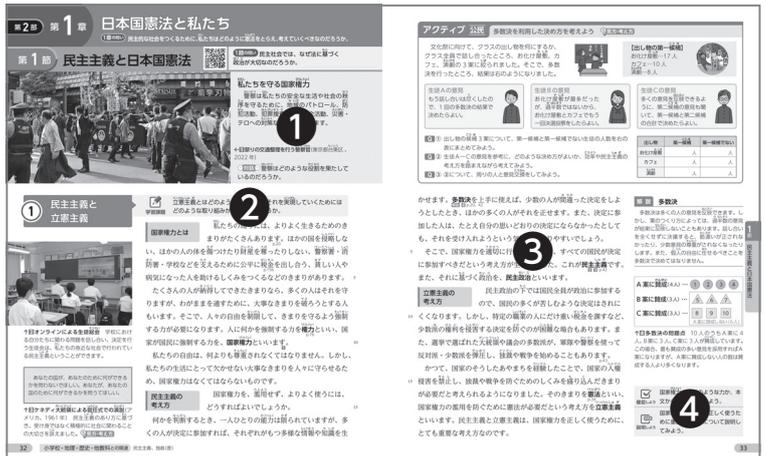
学習と社会をつなぐ導入資料 学習内容につながる**具体事例**です。この事例に関する**導入発問(対話)**も設定しています(①)。

学習内容を見通す学習課題 見開き全体の学習内容を見通す問いです(②)。

わかりやすい本文記述 公民的分野特有の概念や制度について、**端的で丁寧な解説**を意識した本文です(③)。

知識と理解を深める問い 重要事項を確認できる「**確認しよう**」、言語活動で学習内容を振り返る「**説明しよう**」を設定しています(④)。

▶ 本文ページの紙面構成 (p.32-33)



特色3 主権者として社会参画を促す工夫

1. 社会参画を疑似体験できるシミュレーション学習

「アクティブ公民」では、まちづくり、起業、国際協力などの**社会参画を疑似体験できるシミュレーション学習**を設置しています。学習内容の理解を深めるとともに、社会と関わるイメージをもつことができます。本文ページと連動して実践できる展開にしているため、限られた授業時数の中で無理なく取り組むことができます。

▼パン屋さんを起業してみよう (p.144-145)

単元	単元を通したシミュレーション学習
2部2章3節	自分のまちの課題を解決する予算案を提案しよう
3部1章2節	パン屋さんを起業してみよう
4部1章2節	持続可能な社会のための支援策を提案しよう

▲コラム パン屋さんをつくろう (p.135、137、139、ほか)

2. 選挙権年齢と成人年齢に向けた知識・技能を習得できる「18歳への準備」

・特設ページ「18歳への準備」では、選挙権を有し、成人としての責任が生じる18歳に向けて身につけたいメディアリテラシー、契約、ライフプランや金利などの実践的な知識や技能を学習内容と併せて習得できます。

ページ	「18歳への準備」
p.84-85	メディアリテラシーを身につけよう
p.128-129	契約について考えよう
p.154-155	ライフプランから金融を考えよう

▲契約について考えよう (p.128-129)

特色4 持続可能な社会に向けた行動を促す工夫

1. 未来の社会をつくる取り組みを通して主体性を養うことができる「未来に向けて」

- ・特設ページと本文ページのコラムに設定している「未来に向けて」では、未来の社会をつくるための具体的な取り組みを確認できます。持続可能な社会の実現に向けて、学びに向かう力を育成できます。
- ・地理的分野・歴史的分野と共通する「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6テーマを設定しています。
- ・巻頭では、SDGsの17の目標と、その実現に向けた各地の取り組みを紹介しています。

▶よりよい社会を目指して (巻頭1~2)

▶持続可能な社会に向けて 大阪・関西万博 (p.214)

2. 中学校社会科のまとめができる「課題探究学習」

- ・第5部第1章では、中学校社会科のまとめとして、課題探究学習に取り組みます。課題設定、資料収集、考察、レポート作成の一連の流れと方法を具体的に示しているので、無理なく実践できます。
- ・課題の設定については、各単元の「学習を振り返ろう」でまとめた探究学習のテーマ案を活用できるようにしています。教科書全体を通して、課題探究学習に取り組むことができる構成になっています。

▲課題探究学習 (p.216-217)

▶各章末での探究テーマの設定 (p.72)

特色5 編修上の工夫

1. すべての生徒が使いやすいユニバーサルデザインに基づいた編修

- ・特別支援教育の専門家からの助言をもとに、図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、インクルーシブ教育へ配慮した編修を行っています。
- ・文字は、読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。また、重要語句を示すゴシック体の太さや

ビの見やすさにも工夫を凝らしました。

- 配色は、色覚特性に配慮した**識別しやすい色づかい**となるように工夫しています。また、図版に模様や線、記号などを使用することによって、**色以外からも情報を読み取れる**ようにしています。
- 学習者用デジタル教科書を発行し、ふりがなや音読、色の反転などの機能を付加します。

2. 生徒の個別最適な学びを支援する QR コンテンツ

- 学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するコンテンツを多数掲載し、**個別最適な学び**を支援します。
- 教科書の学習内容とリンクした「学習の前に」「学習を振り返ろう」「アクティブ公民」「パン屋さんをつくろう」のリンク集、ワークシート、アプリケーションなどで、**学習内容の定着**を支援します。
- 「用語解説」「統計資料」「図解アニメーション」「巻末法令集」のほか、「NHK for School」や「リンク集」など、生徒が**みずから学習内容を深める**際の足がかりとなるコンテンツを用意しています。
- そのほか「他分野教科書リンク」「教科書を活用した学び方」「思考ツール・白地図」を掲載しています。

3. 指導しやすさ・学びやすさ向上のための取り組み

- 小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・地理・歴史・他教科の関連」や「小・地・歴の関連アイコン」を示し、既習事項を踏まえて、物事を**多面的・多角的に捉える**足がかりを設けました。また、分野間・教科間での**カリキュラムマネジメント**を実施する指標となるようにしています。
- **1 見開き 1 時間**での授業を原則とし、適切な分量で学習計画を立てやすくしています。「学習を振り返ろう」も含めて、総授業時数を 90 時間（標準時間 100 時間）としています。
- 生徒の**発達段階**に応じてそれぞれ難易度設定をしており、学びを深められるようにしています。
- 男女のイラストで役割を限定しないなど、**ジェンダーの固定観念をもたない**ように配慮しました。

4. 使いやすく、環境に配慮した印刷・製本の工夫

- 紙は軽くて丈夫で、写真や図版が鮮明にうつるものを使用しています。
- 再生紙を用いた紙と国産米の米ぬかからつくられるインクを使用し、環境への配慮をしています。
- 堅牢な造本方式を採用し、使用期間中壊れることがないようにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1部 現代社会 第1章 現代社会と私たち 1節 現代社会の特色 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会をとらえる枠組み	A A (1) A (1) A (2)	p.2-28 p.4-11 p.12-15 p.16-21	11
第2部 政治 第1章 日本国憲法と私たち 1節 民主主義と日本国憲法 2節 基本的人権の尊重 3節 法の支配を支えるしくみ 第2章 政治と私たち 1節 民主政治と私たち 2節 国の政治のしくみ 3節 地方自治と私たち	C (1) C (1) C (1) C (1) C (2) C (2) C (2) C (2)	p.30-73 p.32-41 p.44-51、54-63 p.66-69 p.74-114 p.76-83 p.86-97 p.100-107	34
第3部 経済 第1章 経済活動と私たち 1節 経済のしくみと消費 2節 企業と生産 3節 市場経済と金融のしくみ 4節 財政と私たち 5節 日本経済の課題とこれから	B B (1) B (1) B (1) B (2) B (2)	p.116-180 p.118-119、122-127 p.132-143 p.146-153 p.156-165 p.168-173	24
第4部 国際 第1章 国際社会と私たち 1節 国際社会のしくみ 2節 地球的課題とその解決	D (1) D (1) D (1)	p.182-214 p.184-191 p.192-207	14
第5部 課題探究学習 第1章 課題探究と私たち	D (2)	p.216-223	7
計 100 時間（予備 10 時間含む）			